

行ってみました

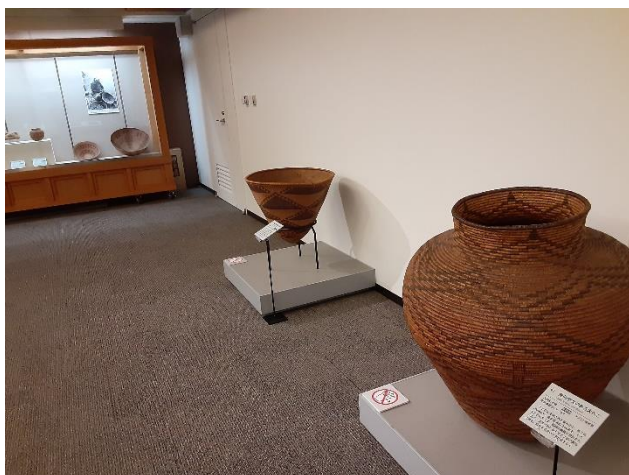
天理ギャラリー

本間一恵

「大自然への敬意」という青いチラシが目にとまった。北米先住民の精緻で美しいかごの写真が載っていたからである。場所は神田の天理ギャラリー。会期を待って、行ってみた。

JR 神田駅の西口から、飲食店がひしめく西口商店街を真っすぐに進む。二本目の大きい道路の向こう、突き当たりにあるビルの9階に天理ギャラリーはある。

名前からもわかるように、天理市にある天理大学付属天理参考館と図書館の収蔵品を東京でも見てもらえるようにと、1962(昭和37年)に開設されたスペースである。落ち着いた雰囲気との展示とともに、毎回図録も作られるという充実した内容だが、入館料は無料。ギャラリーのパンフレットには「年3回の展覧会を企画・展示、図録を作成頒布する」とある。今回の北米先住民の伝統文化の企画は第177回展となっている。60年前に出来たのだからと60で割ってみたら、2.95。本当に年3回だ。改めてすごいと思う。受付には頒布可能なバックナンバーがずらっと並んでいた。



かごも少しは見られるだろうという程度の期待をはるかに超えて、写真で眺めていたかごたちの実物が目の前に並んでいる。まずは、装飾的なポモ族のコイリングかごの小ささに驚く。ガラス越しとはいえ、ヨークトのかごの人物模様も詳細に眺められる。大きいかご2点はケースに入っていないので裏側も見えて取れる。チラシに載っているトリンギット族の手の込んだ美しいかごは、調理用だという。本で見るホピ族のかごは、出来立てのカラフルなイメージだが、ここにあるのは天然染料がだいぶ退化した色合いだ。どれも年代は20世紀とあるが、素晴らしいクオリティのものばかりである。他に土器、祭具等も見ごたえがある。解説も興味深い。

日本で北米先住民のかごが見られる機会はめったにない。しかも東京の中心地である。近くを通ったら、ぜひ神田で途中下車して見て下さい。12月3日まで。

[天理ギャラリー | 株式会社東京天理教館 \(tokyotenrikyokan.co.jp\)](http://tokyotenrikyokan.co.jp)